

2010/04/30

## 分析分科会平成22年度第1回運営委員会 議事メモ(案)

2010年4月19日(月)13時30分～16時30分

東京八重洲ホール 4F

出席者(順不同・敬称略):

委員長 衣笠(産総研)

委員 永岡(熊本県)、上本(東京都)、小畑(和歌山県)、奥野(埼玉県)、尾形(山梨県)、早川(山梨県)、村岡(岡山県)、大橋(名古屋市)

産総研側委員・事務局 前田、福本[途中参加]、一石、松本

### (1) [配布資料2ページ目]平成22年度分析分科会運営委員名簿

全出席者による自己紹介の後で、衣笠委員長による記載情報の確認のお願いがあった。

→各委員から何箇所か修正のお願いがあった。

### (2) [配布資料3ページ目]分析分科会平成22年度年間日程(予定)

衣笠委員長からスケジュールの説明がなされた。また、スケジュールの追加希望の確認があったが、各委員からの希望はなかった。

- ・ 昨年度会長県である埼玉から今年度会長県の山梨に既に引き継ぎが行われた(奥野、尾形、早川)
- ・ 共同試験結果等の資料の編集は松本が行う。

### (3) [配布資料4ページ目]平成21年度決算及び22年度経費予算

衣笠委員長から以下の説明があった。

- ・ H21 決算 現在は産総研の経費でサポート、参加費は徴収しない事は継続。
- ・ H22 予算 現在要求中。知的部会総会を行うので印刷代が追加されている。
- ・ 今年度の予算で来年度の試料を180個作成する。今年から共同分析結果を用いて精度管理用標準物質として配布できるよう試料を多めに作成することにした。今までの共同分析に用いた試料の残りの配布を開始している。分析分科会ホームページに試料配布の案内と使い方が掲載されている。今後の共同分析用試料の選定ではこの点も考慮してほしい。配布試料は無料である。
  - ・ 無機分析に関する共同研究をダブルで実施する予算の余裕はない。
  - ・ 共同研究への参加機関が年々増加している。
  - ・ (会議終了後)村岡委員から事務局に確定した見積書が今後事務局に送られてくる予定。

### (3)[配布資料 5-1 ページ目]

資料1 平成22年度分析分科会年会開催資料(知的基盤部会総会と併催)

開催県の村岡委員から説明があった。

- ・ 会場名である末広は約24人、曙は約84名可能。
- ・ 交流会での乾杯を誰にお願いするかは毎年9月末ぐらいにはっきりしてくる(事務局)。昨年度は次期開催県の方が乾杯をされていた。
- ・ 特別講演会の講師は、開催県により夏までに決定する予定。
- ・ 11/25 および 11/26 の会場弁当は事前申し込をもらいメルバルク経由で外部業者に注文される予定。
- ・ 11/26 の工場見学について、会場出発時刻の 12 時 50 分が早まるかもしれない。
- ・ 見学コースに下水処理設備が入る。専門的な話ができる方に見学时説明依頼。
- ・ 東京からの移動時間 飛行機の場合実質2時間半、新幹線は3時間。県は飛行機を推奨、見学会後空港まで送る事も可だが空港には店が少ない。会場は JR 岡山駅から徒歩 10 分程度。

(4)[配布資料6-1ページ目]年会プログラム(案)

衣笠委員長より以下の説明があった。

- ・ 田中部会長が参加の場合は、開会の挨拶をお願いする可能性がある。
- ・ 「検討会・材料評価」を実施するかどうかは5月までに決めなければならない。現在未決定なのは小島前委員長が試料を提供していたが退職したため。材料評価の検討会が実施されない場合は無機分析の検討会のみになる。

(福本委員が到着してから、材料評価の試料に関する議論が行われた)

- ・ 今年度できなくても来年度に向けて取り組む。今年度実施するとなると時間に余裕がない。
- ・ リートベルト解析(粉末X解回折分析)を利用した案が提案されたが、担当してくれる機関がないので保留になった。引き続き担当機関を募りたい。
- ・ 上本委員により、蛍光 X 線による共同試験ができないかどうか提案があった。
- ・ 衣笠委員長(の研究室)で所有している塩ビ中の臭素難燃剤(NMIJ CRM)分析が可能であるかどうか検討することになった。臭素の濃度は比較的低い、技術的には可能である。
- ・ 福本委員、衣笠委員より、これまでも材料評価試験の共同分析は技能試験ではなく分析技術上の問題点について意見交換するためなので、実施するのが良いのではないかという意見があった。
- ・ 地域イノベでは六価クロムの溶出試験を行った。報告書が出たら分析分科会で報告する。来年度共同実験できるか検討してもらいたい。

(5)[配布資料7ページ目]総会・年会開催案内(案)

衣笠委員長より説明があった。

- ・ 8月頃に一斉メールで会員に送信される予定。用紙で各公設試の代表に送付される予定。

(6)[配布資料 8 ページ目]共同分析試料の概要、

および、

別紙「共同分析資料の均質性試験について」、

別紙「共同分析実験試料調製(発注番号 AA09035149)報告書 平成22年2月 株式会社 環境総合テクノス」

村岡委員から以下の説明があった。

- ・ 「2. 試料概要」において、「Al 13.03wt%, Zn 0.949wt%」と書かれているが、「Al 9.11wt%, Zn 0.724wt%」が正しいので修正してほしい。理由は Zn 滴定法(逆滴定)で分析したが、Zn 標準液調製において Zn 溶解を失敗したため。
- ・ 共同分析の案内資料では、濃度情報が除外される。
- ・ 「4. 分析手順の概要」の「分析方法」において、JISH1332, H1333, H1334(AAS)の他に、1342, 1343(ICP-AES)も参考として追加する。計5個の JIS。
- ・ 環境テクノスにおける蛍光 X 線分析による均質性試験では相対標準偏差が約10%。村岡委員蛍光 X 線分析による均質性試験を行ったが表面状態が均一ではなく、相対標準偏差約5%の結果が得られた。
- ・ 湿式分析によって均質性を確認しなければいけないのではないかと質問に対し、村岡委員のほうで ICP-AES の分析を行い均質性のデータとして提供する旨報告された。
- ・ 分析対象成分は Al、Zn、Mn の三成分で良いか。
- ・ (他の委員)微量元素分析はやらないのか?→A: 珪素は数百 ppm含まれている。鉄、銅も含まれている。不純物情報は公開しても問題は生じないし品質確保の上で日常的に分析する項目であるので ICP-AES の結果をみてどの成分を報告項目とするか検討したい。均質性分析結果を事務局に送り、委員に配布して意見を求め最終決定することとした。

以上の各委員からコメントのあった問題について村岡委員が今後検討する事になった。

(7)Z スコアについて

福本委員より、Z スコアはロバストな方法であり、例年通り採用するとの報告があった。

(8)その他

- ・ 上本委員より、長年にわたり委員を務めてきたが JIS と ISO 関連の仕事で多忙であるため、今年度一杯で退任の希望が表明された。退任される場合は、B ブロック(関東)から新たな委員が選出されることになる。

2010/04/30

- 大橋委員より、昨年度の年会で話されたビデオの件が進行していないとの報告があった。他の委員から Web ストリーミングできないのかという意見があった。
- 福本委員より、産総研計量研修センター主催のトレーサビリティ指導者養成講習、および、分析実務者講習（企業の方向け）の宣伝がなされた。前者は有機分析関連の申込者が少ない状況。両講習共に研修センターの標準プログラムであり、理事長名の修了書が発行される。
- 分析分科会年会用資料の最後のページ（裏表紙の裏）には毎年発行者と編集者が記載されているが、今年度からこの上に各年度の運営委員会委員（所属機関名と氏名）を記載する事になった。

以上